

飾り物随意

高山飾物同好会 小瀬信行

飾り物の季節には大原正純郡代を思う。

彼は十八歳で郡代に。天明七年（一七八七）二十四歳のとき、高山陣屋の初午祭に際し二十四孝を題材に町人に飾り物を奉納させた。二年後、天明の大原騒動により八丈島に遠島。江戸に戻ったのが文化八年、四十八歳のとき。六十歳で没したとあり、波乱の一生であった。

ここに、大原郡代の奉納飾り物から百年経った明治二十年（一八八七）、その年四月の日枝神社大祭と三月の櫻山秋葉神社鎮火祭時の『高山町両祭作物飾一覽』（作物飾は今の飾り物）があり日枝も八幡も氏子出品の作品は百二点ずつ。ほかに十五点の出品があったと記されている。

手長足長は十能と炭かき、富士に船は提灯屋具、柳に燕は鎌と釘抜き、籠の渡しは馬具、蝶に蜻蛉は髪結具と、飾り物の決まりである同じ種類の材料を使って作品を創って、いて明治の趣味人たちの機微を感じる。

昭和三年（一九二八）十一月の昭和天皇御大典奉祝の折、各町内の作品を書き写した長尾桃雨さんの『飾り物覚

書帳』は貴重な資料である。

なかでも琴上の琴爪箱を鳳輦に、琴柱を行列に見立てた作品は、材料は音曲具三点、奉祝行列を彷彿させる秀作である。

飾り物は時代とともに題材や材料が変わるが、調和や材料のもつ美や質感を感受する感性はとても大事である。

福田夕咲さんの執筆された『飾りものの話』では、飾り物は三つのタイプがあり、ぼんどりを丸めて猪に模した「作り物」、大小二本の刀剣で日本大勝とかけた「判じ物」、琵琶などを船に見立てた「見立て物」がある。

うち主流は見立て物で「軽妙洒脱」を要諦としている。辞書によると「軽妙」は、軽

やかでうまみがあること、気が利いて上手なさま、とある。「洒脱」は、さっぱりして俗気がなく、気が利いていること、とある。

また夕咲さんは「飾り物を飾る心得は、飾り物を鑑賞する心得」と説く。一人よがりではなく、題材に沿った着想で乙な材料を使つたうりのよい飾り付けがナ、と識別反芻、自問自答が必要ですよ、と指摘している。

飾り物は、題材にマッチした着想で、材料は茶道具や文房具など同じ種類三点以内、それで飾り付ければ作品となる。

高山の飾り物は、江戸時代の天明七年から二百数十年連綿と受け継がれ、最近では女性や高校生の出品もあり広がりを見せている。飾り物は頭の体操である。身近な材料で気軽に飾り物を楽しんでいただきたい。

平成二十五年「飾り物展」作品集募集

新年恒例「飾り物展」の作品を募集します。初春を祝う催しですので、市民の皆様への多くの参加を待ちしています。

◆テーマ 平成二十五年の干支「巳」、又は歌会始の勅題「立」（動作の「立つ」だけでなく、「立」の入った熟語「立志」「立春」などを題材にしても可）

◆資格 市内町内会や同好会、各種団体、市内在住の個人

◆点数 一団体（個人）一点

※展示数に限りがあるため先着順にて締め切り

◆規格 幅一〇〇センチ×奥行九〇センチに収まること

◆応募 文化会館窓口にて配布の応募用紙に、必要事項を記入の上、十二月二十日（木）までに同窓口へ提出、または文化協会へ郵送

◆場所 文化会館

◆展示 十一月十一日（金）～十三日（日）

◆問合せ （社）高山市文化協会（三四・六五五〇）

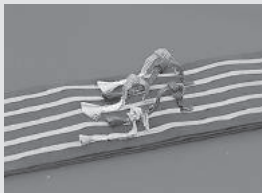
「ヤングチャレンジ部門」

国体記念飾り物展でも好評いただいた「ヤングチャレンジ部門」を今回も開催いたします。高校生以下を対象として、現代にある身近な道具で作る飾り物を募集します。応募方法などは一般と同様ですが「ヤングチャレンジ部門」と明記してください。

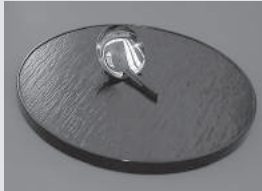
第六十七回国民体育大会「ぎふ清流国体」協賛 飾り物展

去る10月2日～4日まで開催した国体記念飾り物展には、一般48点、ヤングチャレンジ部門30点が出品され、以下の方が受賞されました。

●一般の部



◇天位（高山市文化協会長賞）
「女子陸上」（帯・羽織紐）
白川文太郎（八幡町）



◇地位（高山市長賞）
「採火」（銀杯・お盆・箸置）
山越文子（下之切町）



◇人位（高山飾物同好会賞）
「ハンマー投げ」（扇・印籠・根付）
八幡鳳凰台組飾り物同人（大新町2）

◇佳作（ぎふ清流国体高山市実行委員会賞）
「ウエイトリフティング」 野澤竜弥（冬頭町）
「アーチェリー」 打保三千雄（上岡本町3）
「平均台」 玉腰健三（八幡町）
「棒高跳び」 小島政人（大新町2）
「競泳」 古滝雅之（八幡町）

●ヤングチャレンジ部門 ◇入賞

「自転車～ウィニングラン～」 佐藤綾太・矢島七聖
「重量挙げ」 春国立真・二村洋輝
「野球」 廣瀬知代・三木七優可
「柔道」 小林朋未・板倉有生乃
「カヌー」 高原寛・中川涼太

「日本三景松島、世界遺産平泉と文豪の足跡を訪ねて」

9月23日(日)～25日(火)

初日に到着したのは、津波に襲われた仙台空港：全面復興し黒々と舗装された滑走路、ロビーも美しかった。

バスで名取川周辺沿岸部を走り津波の傷跡：土台だけの屋敷跡、使用不能の家屋、丘に残る船、耕作不能で雑草生い茂る水田など目にし、車中で声も無く胸が詰まった。

松島に着き、五大堂、瑞巖寺参詣、午後日本三景の松島の島巡り、下船して奥州一之宮塩釜神社参詣。降雨強くなり行程切り上げてホテルへ。



津波で損傷したガードレール

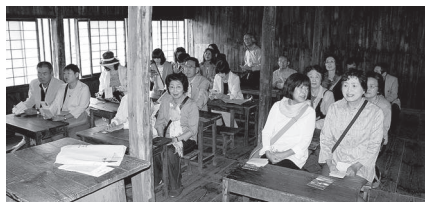
二日目、伊達政宗公霊屋瑞鳳殿へ：桃山様式の豪華絢爛な廟建築に驚く。高速道路を北上し、世界遺産古都平泉へ。国宝中尊寺金色堂を拝観：「五月雨の降り」のこしてや光堂 芭蕉：一山数多の堂宇は山火事などで焼失したが、金色堂はよくぞ残ったものだ。何度見ても素晴らしいお堂。



金色堂覆堂

わんこそばの昼食後、毛越寺へ。平安時代の優美な浄土庭園、宇治平等院を模して作庭されたもの：「夏草や兵どもが夢の跡 芭蕉」：諸々の想いを残し移動、北上川の泥岩川床「イギリス海岸」を見学し、花巻温泉へ。

三日目、更に北上し洪民へ。石川啄木記念館見学：文学への情熱、直筆の書簡に感動。後、南下し花巻市へ：宮沢賢治記念館見学、環境を始め多分野にわたる研究を手がけ、二十七年の生涯を精力的に駆け抜けた秀才に敬服多々。



啄木記念館での特別授業

(社)高山市文化協会
共催事業のご案内

青年会議所演劇公演 「明日への扉3」

平成24年11月11日(日)
午後3時開演
高山市民文化会館(大ホール)

●入場無料(整理券による優先入場)
整理券は、高山市文化会館他で配布

今回で3度目となる青年会議所主催の演劇公演。5月のオーディション以来、小学生から高校生までの55名が長期にわたる稽古に励み、精神的にも成長してきました。この演劇にかけた子どもたちの姿を是非見に来て下さい。



〈あらすじ〉東クロニアで子供たちに音楽を教えている最中、クーデターに巻き込まれ消息不明となった音楽教師の父。それから一年が過ぎ、父の創った「希望の歌」を歌いながら心ここに有らずの長女、家に閉じこもってしまった次女、仲の良かった姉妹に亀裂が生じる。そんなある日、幼い妹たちは天国へ行ける不思議な扉を開いてしまう...

(社)高山市文化協会加盟団体 文化協会の後援 催事のお知らせ

「高山市民合唱団「ひゆら」第五十四回定期演奏会」

◇日時 十一月十七日(土) 午後六時三十分

◇場所 飛騨センター・飛騨芸術堂

◇料金 大人千円、高校生以下無料

「第四十四回 高山市民吹奏楽団定期演奏会」

◇日時 十一月二十三日(金・祝) 午後六時三十分

◇場所 文化会館・大ホール

◇料金 一般千五百円、高校生以下五百円

「記事訂正のお知らせ」

前号掲載の飛騨文芸祭受賞者名に一部誤りがありました。

◇青竜賞 岡田未佳→岡田未佳

中島真紀→中島真紅

お詫びして訂正いたします。

「岡目(目)」

「越中で立山、加賀では白山」とおわらは歌う。あの中の「加賀では白山」というのが気になる。立山は確かに一〇〇%越中だが、白山は半分飛騨ではないか。

もう一つ。「木曾の御岳」という言い方もシャクに障る。これも半分は飛騨ではないか。先に言ってしまった方が勝ちか。北アルプスなんて言わないで、飛騨山脈と呼べと主張している人もいる。

そういう中で笠ヶ岳だけは一〇〇%飛騨の山で、どことも境を接していない。今ここを中心にして世界ジオパークに認定してもらおうという動きがある。

ユネスコが支援している貴重な地質遺産で、人と地球との関係を楽しみながら学ぶ場になりたいと言う。まず日本ジオパークにして、そこから世界ジオパークを狙おうという準備委員会ができています。

六五〇〇万年前のカルデラ火山の絶壁の水平な縞模様様が世界的にも珍しいものだそう。海の島の獲り合いも大事だが、山の縞の売り込みも成功して欲しい。

《ガンモン毛筆》